

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス マイカ		公表日		2026年 3月 31日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		5	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		5		職員の体調不良や急なお休みでも適切な支援が行えるよう、適切な人員をお配置を行っている		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		4	1	通ってくる児童に合わせてながら、環境の配慮を行っている		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		5		朝礼前・送迎後の2回掃除の時間を実施し、清潔な空間を保っている。消毒は次亜塩素酸ナトリウムを適量に薄めて行っている		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5		環境の構造化を図り、見通しの良い室内にしている。また、個室も2つ準備し児童が落ち着ける環境も設置している		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		5		朝礼時の振り返りやその日の活動についての話し合いを行うことで、PDCAサイクルができている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		5		保護者からのご意見・評価を職員間で共有し改善すべき点については速やかに対応するよう努めている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		5		朝礼時に振り返りの機会を設け、職員の意見を把握している。必要があればケース会議を開催している	ベテランや新人職員誰もが意見を出せる環境づくりを目指す
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	1	実地指導やアンケートの結果を基に改善に努めている	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		5		事業所のみでの研修だけではなく、職員のスキルアップのために外部研修を取り入れている	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		5		支援プログラムについての会議を行い年度初めに作成し、公表をしている	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		5		保護者との面談(アセスメント)を基に作成した支援計画を立案し、支援会議を経て職員の意見を聞き適切な支援計画を作成している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		5		全職員参加の支援計画を通して担当職員を中心に意見を聞き、本プランの検討を行っている	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		5		支援会議を通して全職員が支援計画を確認し、支援を行っている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		5		定期的にケース会議を実施し、児童の適応行動の状況について職員間で話し合い共有している	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		5		児童発達支援管理責任者を中心に支援会議を行い、ひとりひとりに合わせたオーダーメイドの個別支援計画が作成されている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		5		長期休みや祝日では事前に担当職員と活動内容を共有し、修正箇所があれば話し合いを行っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		5		活動の担当を日替わりで行い、固定化しないように工夫を行っている	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		活動内容や児童の様子で、個別・小集団・集団と状況に応じて支援を行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		午前の時間を使い、日々話し合いを行っている	祝日や長期利用の際でも時間の確保をしっかりととる
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		毎回時間を設けて行っている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		システムで記録を残し、朝礼や終礼を通して改善を行っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		保護者と日々情報の共有を行っている。必要であれば都度計画の見直しを行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		基本活動を定期的に循環している	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		活動や余暇時間を使い、選択が出来るように工夫を行っている	直接的な支援についての研修を行っていく
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児発管が参加をしている。今後は、担当の職員も同行してより事業所での状況を伝えられるようにしていく	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		教育に関しては連携が図れている。他は必要があれば相談支援員を介して連携を図っている	協力医療機関との定期的な情報共有を行っていきたい
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		保護者を介して連携を図っている。必要な際には学校へ連絡し参観するなどの機会を設けた	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2	必要があれば連携を図っている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		移行の際には、情報共有と相互理解を図っている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		事業所を利用する際に、以前に児発に通われていた際は必要に応じて情報共有を図っている	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		夏休みを使い、他事業所との交流会を開催した	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		時間の調整が付けれる際には参加をしている	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時、メール、電話にて保護者と情報の共有を行っている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	取り組むことが出来ていない、今後はご家族の参加が出来る研修や保護者同士の交流する機会を設けていく	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に時間を設けてお伝えをしている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		保護者との情報共有の中で、子どもの好きな事や保護者の願いなどを尊重しながら支援計画を作成している	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		面談を通して、紙面にて保護者の方と読み合わせを行い、計画の同意を得ている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		ご家族からの悩みがある際は、電話や直接来ていただき助言や支援を行っている	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		利用児童の居ない午前中や、休業日を利用して卒業生の懇親会や学校の先生を招待して座談会などを行った	今後は在籍している児童の保護者の方を招いて交流する機会を設けていきたい
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情を受けた際の流れを職員間で共有している。すぐに、対応が出来る体制を作っている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		ホームページやブログを通して、活動内容や日々の過ごしを発信している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		ブログやホームページに写真を掲載する際には、掲載同意書を確認しながら行っている	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		お子さまによっては絵カードや写真を提示し伝えたり、保護者には電話やメールなどで意思疎通を行っている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		中学生の職場体験や、ボランティアの受け入れを積極的に行っている	地域の住民を招待できるように計画を立てる
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		事業所内でいつでも閲覧できるようにしている。また、定められた実施数を実行している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCPを作成し非常災害に備えて職員で訓練を行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		契約時のアセスメントの際に、服薬やてんかん等の確認を行っている。また、変更があった際は保護者と共有し職員間で周知している	アセスメント欄に服薬やてんかんの有無の欄を設ける
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2	現在、医師の指示書に基づく対応が必要なお子さまの利用はありませんが、必要時には対応できる体制を整えている	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を作成し、職員研修を行いお子さまの安全を常に確認しながら療育を行っている	実施内容や回数など、定期的な見直しが必要
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		面談や契約の際に安全計画を伝え、周知している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットを職員間で共有し、ファイルを作成いつでも閲覧できるようにしている	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止委員会を設置し、委員を中心に職員研修を行い虐待防止に努めている	研修内容の充実を図る
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束に関する研修を行い、可能性があるお子さまに対しては事前に説明し了承を得て計画作成を行っている		